

飯豊山春合宿

日時：2009年4月29日 - 5月1日

山名：飯豊山

形態：縦走

メンバー：リーダー谷嶋 迫 常谷

報告：常谷

ルート：

4/29 飯豊梅花皮荘 飯豊山荘 梶川尾根 門内小屋

4/30 門内小屋 北股岳 梅花皮小屋 烏帽子岳 御西岳 飯豊山
本山小屋 御西小屋

5/1 御西小屋 梅花皮小屋 石転び沢 梅花皮沢 飯豊山荘 飯豊梅
花皮荘

私にとって初めての飯豊山。今回は山岳部の先輩が昨年末にデポした食料とガス、赤布の回収というミッションもありますが、迫さん、谷嶋Lと縦走できるので楽しみです。

4/28 合流して出発、4/29 1:00 飯豊梅花皮荘駐車場到着。今夜はここで幕営です。

1日目(4/29)

5:30 起床。残雪の飯豊山は大きく美しく、登山意欲を掻き立てられます。

6:40 飯豊梅花皮荘出発。飯豊山荘まで1時間。谷嶋さん達が正月に来た際はここまで3時間のラッセルだったそうですが、今回は雪もなく順調。



7:50、飯豊山荘出発。梶川尾根に取り付きます。天候は快晴。門内小屋まで1,480mの登りです。

途中から積雪が出てきました。高度を上げるに従って新雪が多くなってきましたが比較的締っており、つば足で問題なく登れます。



一本入れたところでザックを開けると、うおっ、なにか凄いにおいがします。どうやら預かった漬物の汁がこぼれたようで、荷物のなにやらにやらが漬物の香りに染まりました。とりあえず漬物パックは大きな袋に厳重に密封しましたが。。

滝見場展望台あたりで迫さんがクマを発見。向かいの小尾根からこちらに向かって歩いてきています。さすがマタギの山、早くもくまさんの登場です。あまり近づかれると危険なので迫さんの呼子と私の奇声で警告すると逃げていってくれました。とりあえず一安心です。

昼過ぎあたりから風が出てきました。早く小屋に着かないかなぁ。

14 時ごろ、門内小屋到着。



この小屋にデポされたものを回収します。と、大量の食料が出てきました。4人で一週間分の食料のようで、さすがにずっしり。できるだけ食べて荷を軽くしたいところなので、重たそうなものから優先的に食べることにします。

ということで、夕食のメインはアルファ米+ステーキの具(パウチ)ん・・・?ステーキの”具”で。ステーキってまるごと肉じゃないの?

開けてみると、牛丼ですね。紛れも無く。でも味は良い。
さらにラーメン+伊藤ハムの煮卵チャーシューメンマセット。

明らかに食べ過ぎた。。

小屋には他には誰も来ず貸しきり状態です。毛布や銀マットも用意されており、避難小屋とは思えないほど快適。



ガスも回収したデポ品が大量にあるため、ガンガン燃やして暖を取ります。

2日目(4/30)

4:00 起床。朝食はアルファ米+カレー(パウチ)+ラーメン。朝から強烈です。

5:00 出発。



途中、梅花皮小屋に昨日回収したデポ品を再度デポします。明日下山時にまた梅花皮小屋を通るのでその際に回収する予定です。



梅花皮小屋から烏帽子岳を経て御西小屋へ到着。今夜はここで泊まりますが、この先の本山小屋にまだデポ品があるので回収に向かいます。

途中飯豊山に登頂。谷嶋 L にとっては 年越しの飯豊山登頂と のことでかなりテンションあがりました。



本山小屋でデポを回収。赤布とガスと日本酒と大量の餅。”餅”ですか。そういえば門内小屋のデポ品の中に海苔と醤油があったな。他に缶詰があると聞いていたので今夜の夕食にと期待していたのですが、ありませんねえ。食べられちゃったかな？

デポ品を持って御西小屋に戻ります。先客が一名。

とりあえず日本酒とつまみで一杯。私は飲めないのてコーヒーで失礼。

夕食は迫さんによるどんぶり。

私は昨日&今朝の暴食が祟ってお腹一杯状態が続いているので軽く済ませたい。

件の漬物もでてきました。キムチときゅうりのキューちゃん。美味しいです。

そういえば、荷物についた漬物の香りはいつの間にか消えていました。

3日目(5/1)

3:00 起床。朝食はラーメン+メンマにスープ。

4:30 出発。まだ日は出ていないのでヘッドランプを点けての出発。

青白い世界を楽しみながら昨日来た道を歩きます。







雪は半ば氷化しており、アイゼンが気持ちよく効きます。

美しい日の出を見ながら梅花皮小屋に到着。昨日デポした荷物を再度回収してザックに詰め込みます。うおお、さすがに重い。我々はこれを持って降りる（しかもいくらか消費して軽くなっている）だけですが、デポしたときはこれを持って登ったわけですから、その大変さたるや・・・頭が下がります。

梅花皮小屋直下の北股沢に入り石転び沢へ。

一部シリセードで下れそうなのでザーと行きましょう。って、ワタクシ、尻より先にザックが接地してまったく滑らない。仕方ないので身体を横にして体側滑り。滑落停止の要領ですね。けっこうこれ、スピードコントロールもしやすいし、荷物が大きくても問題ないので良いですね。

しかし全体的に沢筋の雪は軟らかく、滑れる場所は限られています。結局大半は歩くことになりました。





暫く下ると、迫さんがニホンカモシカを発見。迫さん、視野広いなあ。

梅花皮沢に入ると雪がほとんどなくなり、沢を歩くことは出来なくなりました。仕方なく沢沿いの登山道を歩きますが、中途半端に雪が残っているため直ぐに道を見失ってしまいます。何度か藪に突入して進めなくなったり、崖っぷちに出くわしたり。。下つづて岩あたりで大きく時間をロスしました。

藪は豪雪地帯特有の、横に伸びる木々が行く手を効果的に防いでくれます。しかもこちらはアンテナのような長い竹ざおを背負っているため、藪を抜けるのはとても骨が折れる作業。

苦労の末梅花皮沢を抜け、ようやく飯豊山荘に到着。ここから舗装路を一時間歩いて駐車場まで戻りますが、もう限界に近い身体に硬いアスファルトが拷問のように響きます。

道路沿いの蔭の董を見つけることをモチベーションにして歩を進め、12:15、無事下山。



いやぁ～、いろいろお腹いっぱい。

2009年 4月 29日～5月 1日
飯豊山春合宿(デポ回収山行)

L: 谷嶋
記録: 迫
メンバー: 常谷

28日の夜発、仕事の都合で若干遅れて出発、平日のため高速の¥1000は有効にならず・・・残念
米沢市外を抜け、25:00 飯豊梅花皮荘の駐車場着。
月がなく、暗いので周りがよく見えないが、満天の星空で、明日からの山行が楽しみになる。
その後テントを張り飲んで就寝。

29日

5:30 起床
6:40 発

別の登山者から先週末に上部では1m雪が積もったと話を聞き
ワカンを持っていくか悩むが、結局置いていくことにする。
ここから、車道のあるいて飯豊山荘までの舗装路歩き・・・
冬はここをラッセルしながらの、4時間かかったということだが、1時間で着いてしまった。
谷嶋Lが嘆く・・・
小休止の後、支流の橋を渡って直ぐ右の登山口から入山
梶川尾根への登り、いきなりの急登で息があがる、迫は重力に任せた運動しかしておらず、
この半年間登りがほとんどなかったのが、非常に辛い。2人に遅れを取り始める。情けない・・・
残雪があったり、夏道があったりでルートを探しながら登る。
残雪では、古い雪の亀裂に先週の新雪がかぶり、何度か踏み抜く。また、残雪部から
夏道に戻るときのルートファインディングがややこしい。
湯沢峰を過ぎて少し下ってからは、残雪のルートとなり、ひたすら雪を歩く。
常谷さんは日ごろからランニング等をして鍛えていたり、米国での深～い経験などもあるようで
なかなか、強い、っていうか、自分が弱い？
途中の滝見台付近で、右の方から、熊さんが現れた、距離にして約50m、こちらに気づかず
向かって歩いてくる。前の2名も気がついていないようだったので、「クマ！」と叫んで、
皆で、声出したり、笛吹いたりしたところで、あちらさん(クマ)も気がついたようで、
逃げていってくれた。自分は山での初めての出会いだった。(別の出会いの方が望ましいが、それはなかった)
梶川峰あたりからは、展望も開け、飯豊連邦が眺められる、最高の眺望である。
風が若干強い。

14:10 門内小屋 デポ品を見つけるが・・・なんという量！帰りが思いやられる。
梅花皮小屋まで足を伸ばせると次の日以降が楽になるので、その予定もこの量のデポ品をみたところで
あきらめた・・・
カレー、ステーキの具、フルーチェ、などなど、ガス缶大が4つ。+ 赤旗の束。
賞味期限切れた、サラミ、牛乳などもあった。
牛乳はデポの日ですら既に賞味期限が切れているのにどうするつもりだったのだろうか？
谷嶋Lは飲んでみようと思いが口を開けたが、既に中身は分離していたので、即、廃棄。
常谷さんは以前、賞味期限切れのサラミであたったことがあるということで手を出さなかったが、
迫と谷嶋Lでそのまま食べたり、火を通したりで食べてしまった。美味！
この日の夕食は、豪華！というより、重量のあるものは食べつくし、ガスも大量にあるので、
出来るだけ使う。こんな豪華な山行の食事はいままでにない。
が、しかし、これと同量が本山にあると思うと気も、重くなってくる。
体重が増える山行になってしまうかもしれない。

30日

4:00 起床
5:00 発

夜間は風が強く吹いていたが、今日は穏やか。
天気快晴、ほぼ無風。

6:20

カレー+ラーメン+ご飯
あさから豪勢である。
朝方は、雪面も硬いので、アイゼンつけての出発。
梅花皮小屋着
明日はここからの下山となるので、この先不要となるものはここにデポして進む。
適度にアップダウンのある雪の稜線歩きである。ところどころ、新雪で隠れたところを
踏み抜きがあったものの、順調に進む。
途中、自分のザックからギンマットが落ちてしまい、あっという間に谷底へ消えた・・・
(母さん、僕あのギンマットどこへいたんでしょね・・・分かる人いるか?)
暑い。日差しが強く、とても暑い。

10:30 着

御西小屋
今晚はここに泊。ここから、本山小屋までの往復となるため、必要最小限(ピバークセット)にして
出立する。

11:00 発

本山までは、なだらかな、広い稜線歩き。
視界が悪いと2012.5のピーク経由で進むことになるのかと思われるが、迷いそうなところだ。
確かに、赤旗が多量に必要なと思われる。

12:00 着

飯豊本山山頂
自分は二回目だが、谷嶋Lは、年越しの野望がかなった瞬間であるため、感慨無量という状態だ。
やはりここも、雪は少ないようだ、一昨年と同じ時期に自分は来たのだが、それよりやはり少ない。
適宜写真を撮り、デポ品の待つ本山小屋へ。

12:15 着

本山小屋
ここのデポ品は「もち:なんだか変な色」「ガス缶」「赤旗」「酒:これも賞味期限切れ」のみ。あれ？缶詰は？
缶詰がない。それじゃあ、門内小屋にあった缶切りは？誰かに食われたか。

12:45 発 少し期待していたががっかり。
本山小屋を後にする。
帰りは、本山の南側をトラバースしてショートカット。ちょっと、崩れるのが心配だったが、結構しまっていたので安心。少し間をおいて通過する。

14:00 頃着 御西小屋
酒、つまみで時間をつぶし、のんびりの時間。
谷嶋L呑みすぎ！

1日 3:00 起床 昨夜は、19:00には寝てしまったので、早い時間だが目は覚めた。
風強し。朝は、寒い。
しかし、小屋泊まりであれば、夏のダウンシュラフ+カバー+上下の薄手のダウンで足りる。

4:17 発 少しまだ、暗いく、ヘッテンつけての出発となる。
稜線が広いので特に、危ないところもない。雪面も気温が低いので、アイゼンがきっちり利いている。
強風のため、斜め上体で歩く。なんだか、楽しい。ピッケルより、ストックの方が有利。

6:30 着 梅花皮小屋
デボしたものを回収。。。重い。入山時より帰りが重いなんて・・・

7:00 発 石転び沢を下る。
最初の斜面、最高！滑りて～～といいながら下る。
しかし、割と急なので、転倒は厳禁。雪もまだ硬い時間たいため、尻制動は出来ず。
急斜面を下りたところから、ウヒヒヒ、尻制動。
これを最初から考えていた自分は、赤旗の竹下部がザックから飛び出さないように取り付けていたのだった。
他の2名は。。。やっぱり竹が引っかかってる！ ウヒヒヒ作戦勝ち。
でも、常谷さんは、体を横にして、滑落停止体系で滑っている。うムムムm、やるな～～。
しかし、直ぐに斜度はゆるくなり、尻制動が出来なくなり、つぼ足に。
先週末の新雪の前にほとんどが崩れており、両サイド雪庇などの心配はほとんどなかったが、一箇所夏道を進んでいるときに対岸での岩雪崩が起きていた。
また、雪崩の後に新雪が積もっていることもあり、踏み抜きが多くなる。要注意。
滝沢出会いあたりからは、夏道と残雪のミックス状態となり、夏道の発見がなかなか困難な状況となる。
何度か、ミスコースし、アルバイト。
登りのおじさんが話すには、10年登っているが、こんなに雪が少ないのは初めてだと言うことだった。
下、上つぶて石のところでは、かなりの時間を要してしまった。しかし、安直に考えれば、素直な夏道を見つげられた。。。
ここは、大きく、左岸を巻くように夏道がある。
しかし、この夏道がまた曲者で、我々のザックにくくりつけた赤旗が引っかかる。
体が抜けられても、旗がひっかかり、引っ張り戻される。。。
樹木が雪のため根本から大きく湾曲しているので、余計に引っかかりやすい。
下流域は水際を歩くこともあり、常谷さん、水没。
まともに夏道を進んでいればこんなことにはならないのだが、ルートミス！

10:50 頃 温身平
平地の歩きになってから、足が痛み出す。

11:15 着 飯豊山荘

11:30 発 ここからは、舗装路歩き・・・辛い。
途中で、山菜(ふきのとう)などをとりながら歩く。

12:15 着 車に到着。
最後の舗装路歩きで、ふやけた足の指に水泡が・・・痛い。

おつかれさまでした。

飯豊山荘の温泉でゆっくり疲れを癒し。帰路に着く。